

認知症に関する活動計画（概要）

神奈川県作業療法士会では地域社会振興部内に認知症対策班を設置し、会員に対する知識向上や関連団体・機関との連携を深める活動を実施しています。

研修会開催や他業種との連携活動を継続的に行うことで、認知症のある人や関連する方への対応力を深めて、地域における作業療法士の役割を学び続けています。県内にある本人・家族会や関連団体のイベントに協力していけるよう、活躍できる部員の増員を図っています。

認知症月間でのイベント協力

全国的に行われている認知症の理解を啓発するタスキリレー『RUN伴+』の活動に部員が参加しています。

また、認知症のイメージカラーであるオレンジ色の県士会ロゴマークを作成し、認知症月間中に行われる県士会イベントや刊行物で活用しています。認知症と作業療法の関係性を広く啓発しています。



認知症の人と家族の会との連携事業

県内にある認知症関連団体とつながりを持ち、若年性認知症を含む本人・家族会の活動に部員を派遣しています。県内で行われる認知症関連イベントに参加して、コグニサイズやワークショップ、相談コーナー等の対応をしています。また、自治体から依頼を受けて「家族支援プログラム」として認知症へのリハビリテーションに関する講演を継続的にを行っています。



かながわオレンジフェスタの様子

研修会事業（オレンジイノベーション・プロジェクトへの参画）

認知症に関する知識や情報のアップデートを目的とする研修会を年2回開催しています。

認知機能の評価方法や生活行為への関わり方、認知症に関連する社会資源について学んだり、オレンジイノベーション・プロジェクトに参画して、認知症フレンドリー社会の実現に向けたワークショップを展開しています。作業療法士だけでなく、ご本人・家族も含めた県民参加型でともに学び合う研修会を企画しています。



オレンジイノベーション・プロジェクト
企業ワークショップの様子